

# 平成30年度 加藤学園高等学校 自己評価表(結果)

加藤学園高等学校長

加藤瑠美子

加藤学園高等学校関係者評価委員会委員長

尾崎 庸夫

## 学校教育目標

建学の精神である校訓「至誠」は人間の最も大切な心構えであり、創立以来不変の教育理念として継承されている。教育は、知育・徳育・体育の調和のとれた育成にあるが、徳育の最高目標として、「至誠…まごころを尽くす」を掲げ、近代的知性にあわせて、誠実で品位ある人づくりを目指す。

## 今年度の重点目標

ア 生徒一人ひとりを大切に、豊かな心を育てる      イ 保護者・生徒が安心、満足できる学校づくり      ウ 生徒の希望に沿った進路指導  
エ 基本的生活習慣の徹底      オ 校友会活動への積極的参加、文武両道を目指す      カ 国際理解教育の推進

領域	ねらい	評価項目	達成目標	自己評価	成果及び改善点	評価	学校関係者からの意見
徳育	建学の精神の実践	目標を踏まえた学習活動を実施し、指導と一体化した評価を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶の励行と瞑想の徹底。</li> <li>清掃指導の充実。</li> <li>ボランティア活動の実施。</li> <li>授業充実のために教室内外の環境整備を心掛ける。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームルーム担任と16名の徳育科教員とのティーム・ティーチング授業を実施し、実技指導を充実させている。</li> <li>清掃の時間帯には、ホームルーム担任は清掃指導に当たるようにしているが、階段やトイレなどの一部は、教員の目が行き届かない場合もある。</li> <li>沼津市と協力し、学年単位で実施可能なボランティア活動を計画したが、天候の関係で実施できなかった。来年度は、時期の見直しが必要である。</li> <li>3年生で実施している「いのちのライフプラン」講座は、本年度も大変好評であったので、来年度も継続して実施していきたい。</li> <li>1年生においては、新たに進路探究の時間を設け、自己を見つめる為の貴重な取り組みとなった。</li> </ul>	A	<p>徳育教育は、本校の伝統でありとても大切な部分である。生徒の挨拶はよく出来ていると感じるが、より実践的な指導を期待したい。</p> <p>ボランティア活動は必要である。千本浜清掃は多くの団体が企画しているので、他の取り組みを検討するとよい。</p> <p>若い先生が増えてきたので、教職員の徳育に対する意識を高めるための研修を計画し、実施してほしい。</p> <p>新しいものが入ってくる時代だからこそ、古いものを大切にしてほしい。</p>
校友会	校友会活動への積極的参加	校友会活動を活性化させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の自立性、規律性、人間性、社会性の向上に努める。</li> <li>達成目標を掲げ、心身の鍛錬に励み相互の信頼関係を構築する。</li> <li>1年生は原則全員が校友会活動に入部する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活において、挨拶の徹底や校則の遵守など、人間性や社会性を高めるための指導を行っている。</li> <li>柔道部は、県高校総体において団体・個人ともに優勝し、インターハイへ出場した。</li> <li>陸上競技部は、東海地区予選会において優秀な成績を残し、インターハイへ出場した。</li> <li>バドミントン部は、県高校総体において個人優勝とダブルス2位・3位という結果を残し、インターハイへ出場した。</li> <li>吹奏楽部・化学部・書道部・美術部等の文化部は、大会出場やコンクールへの出展などを行い、良い結果を出している。</li> <li>1年生は原則全員入部を推奨している結果、3年間部活動を継続する生徒の人数増につながっている。</li> </ul>	A	<p>部活動を通して、人間性や社会性を高める指導を実践していることがよく理解できる。</p> <p>多くの部活動が、様々な良い結果を残している。生徒・先生・保護者の努力があつてこそその結果である。今後も継続して実績を残してほしい。</p> <p>今後、部活動の指導者育成が大切なことになってくる。</p> <p>全員入部という取り組みは、大切である。多くの部活動があるため、実現可能な取り組みである。</p>
基本的生活習慣	基本的生活習慣の確立	生徒の健康維持・管理の徹底を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年間皆勤・精勤賞受賞者数を全体の25%以上を目指す。</li> <li>遅刻指導を実施し、遅刻者の減少を目指す。</li> <li>日々の健康管理に気を配り、欠席者数の減少を目指す。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年生の皆勤賞105名、精勤賞55名。3年生全体の29.0%の生徒が表彰された。</li> <li>正門と東門において遅刻指導と下校指導を毎日実施している。遅刻が多い生徒には反省指導を実施し、遅刻の減少に努めている。</li> <li>各クラスに除菌ボトルを配布し、インフルエンザ等の感染性疾患が流行しないように努めた。また、うがいや手洗いの励行と昼食時の換気等を促している。</li> </ul>	A	<p>3割近い生徒が皆勤であることは、非常に素晴らしいことである。子供が学校に行きたいと思えるような楽しい学校の雰囲気になっているのと思う。</p> <p>先生の声掛け一つで、遅刻しないように努力できる子もいる。一人一人の生徒と向き合い、前向きな言葉がけをこれからもお願いしたい。</p>

領域	ねらい	評価項目	達成目標	自己評価	成果及び改善点	評価	学校関係者からの意見
国際理解教育	国際理解教育の充実	国際理解教育の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外への修学旅行を実施。</li> <li>短期留学を充実させ一層の促進をはかる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>2年次にハワイへの修学旅行を実施した。海外旅行を経験し異文化に触れ、また班別研修を実施することで生徒の自主性・積極性を育成することが出来た。</li> <li>カナダへの夏期短期留学参加者は7名であった。2年目のカナダ留学であったが問題もなく参加者にとって有意義なものとなった。</li> <li>セブ島への春期語学研修参加者は19名である。2年目となり参加者が増えた。参加生徒には事前学習等を実施し、コミュニケーション能力や交友を深める一助となっている。</li> <li>校友会にESSを立ち上げ、ALTを中心に韓国との国際交流を企画している。来年度、短期ではあるがホームステイを実施する予定である。</li> </ul>	A	<p>国際理解教育の充実は、現在の日本を考えると益々必要になってくることである。修学旅行以外に、短期留学や語学研修を選択できる制度はこれからも継続してほしい。</p> <p>英語や社会科等の授業を通しての国際理解教育も可能である。ハワイの修学旅行を活かし、国際人としての成長を期待したい。</p> <p>海外の学校との交流は、是非とも実現させていただきたい。</p>
教科指導	基礎・基本の確実な定着と個性を生かす教育の充実	授業改善の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部・各コースの特性を活かし「生徒一人ひとりの能力を引き出す授業」を展開する。</li> <li>教科研鑽に努める。</li> <li>授業アンケートを活用し、生徒の要望に応える。1学期末と2学期末の2回実施。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業アンケートを実施し、生徒の率直な意見を参考に、授業力向上に努めているが、アンケート方法等は検討の必要がある。</li> <li>ICTやアクティブラーニング等の新しい授業実践の為に、1・2年生全員にiPadを購入していただいた。教員用60台を新たにレンタルし、非常勤講師の先生方もiPadを利用しやすい環境作りを実施した。使用状況のばらつきはまだまだあるが、積極的に活用する教員も多く、今後もさらなる研修が必要である。</li> </ul>	B	<p>iPad等を活用したICT教育は必要なことであるが、本当に大切なことは授業の内容である。時代の変化が速いが、それに対応しながらも、充実した授業運営・授業展開ができるように、常に授業力を高める研鑽を願いたい。</p> <p>iPadの使用に関しては、教職員の意識改革と様々な研修が、益々必要になってくる。</p>
		個に応じたきめ細かな指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>副教材を積極的に活用し、基礎学力を定着させる。</li> <li>英検・漢検・情報処理検定等の資格取得にチャレンジする。</li> <li>学習日誌を継続し、生徒個々との対話と情報収集を心掛ける。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>Classi・すらら・スタディサプリ等のデジタルコンテンツの活用を積極的に実施し、学習時間の管理や模擬試験に向けた取り組みを実施した。(1・2年生)</li> <li>スカイプを利用した個別英会話授業を実施した。(特進1年)</li> <li>検定試験については、英検(全学年)や情報処理検定(2年)・ニュース検定(PG1年)を全員受検とし、多くの生徒が資格取得できた。また、漢字検定や数学検定・歴史検定等の受験も呼び掛けている。英検指導の際は、iPad等も活用し生徒一人一人の受験級に対応することができた。</li> </ul>	B	<p>iPadを個人購入しているので、保護者の負担が心配である。これからの教育に必要なことであるが、経済的な部分も考慮しながら、さらに良いものとなるようにお願いしたい。</p> <p>加藤学園の学習スタイル(加藤学園システム)が一つ完成すると、もっと良いものができるように感じる。</p> <p>各種検定試験への取り組みは素晴らしいことである。一人でも多くの生徒が合格できるような指導をお願いしたい。</p>
教職員向上	教職員の資質・能力の向上	校内研修の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>公開授業を年間2回土曜日に実施し、保護者の参加を促す。</li> <li>教科担当者は定められた期間内に研究授業を実施する。</li> <li>模擬授業(カンファレンス)の実施。</li> <li>学内の職員研修実施。</li> <li>私学人として誇りを持ち、生徒の見本となる節度ある言動・服装を常に意識する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>公開授業は部活動見学と合わせ、土曜日に2回実施した。在校生の保護者のほか中学生とその保護者を含め、多数の方が授業を見学し、多くの意見を頂いた。</li> <li>カンファレンスは11年目となり、夏期職員研修として定着している。iPadを活用した授業等も実践し、新しい授業の形を研修することができた。</li> <li>本年度は1・2年生にiPadを導入したので、iPadの研修会を夏期休暇中に実施し、授業等での活用方法を研究し実践している。</li> <li>研究授業については、学校行事等の関係で計画通りに実施できていない部分もあるが、可能な限り積極的な実施を目指したい。</li> </ul>	B	<p>教職員の研修は必要なことである。多忙であると思うが、教師力を高める努力を今後ともお願いしたい。</p> <p>ベテランの先生の活躍に加え、若い先生方の頑張りに期待したい。</p> <p>教員の仕事内容は多岐にわたっている。得意・不得意はあると思うが、不得意な分野にも挑戦することが大切である。先生方の頑張りは、必ず子供たちに伝わっている。</p>

領域	ねらい	評価項目	達成目標	自己評価	成果及び改善点	評価	学校関係者からの意見
進路指導	進学・就職へ向けての指導体制の確立	生徒の進学・就職希望の実現を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・始業前・放課後の補習と個別指導の実施。</li> <li>・長期休暇中の補習の実施。</li> <li>・各種検定・資格取得に積極的に取り組む。</li> <li>・特進部と進学部の一部は、一般受験に挑戦し、県内の4大学を含む国公立大学20名以上、早慶上理、GMARCO、関関同立に30名以上の合格を目指す。</li> <li>・校内進学相談会を効果的に運用する。</li> <li>・教員の長期休暇中の外部講習への参加。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立大学の様々な入試に合わせた個別指導を実施した。</li> <li>・3年の教員を中心に大学での入試説明会や新入試の説明会などに参加した。特に、新入試については不透明な部分も多く、引き続き情報を入手し、学校全体で共有する必要がある。</li> <li>・国公立大学の合格 静岡大学・静岡県立大学・都留文科大学(3)・長野大学・首都大学東京・茨城大学・宇都宮大学・群馬大学・鳥取大学・防衛大 学校</li> <li>・私立大学の合格 東京理科・明治(2)・青山学院・立教・中央(3)・法政(3)・学習院・立命館(2)・成蹊(3)・成城・明治学院(5)・國學院(2)・東京女子・津田塾など</li> <li>・校内進学相談会は約70の大学・短大・専門学校に来ていただいた。3年生の生徒・保護者・教員が参加したが、保護者の関心も年々高まり、多くの方が来場している。次年度については、人気のある大学は別教室で説明を聞くなどの工夫をする必要がある。</li> </ul>	A	<p>大学入試改革については、素早い情報収集が必要である。ベテラン教員も若手教員も共に研鑽してほしい。</p> <p>生徒一人ひとりに合った、きめ細かい指導が感じられる。そのため、生徒・保護者が納得する進路指導ができています。</p> <p>一人ひとりを最後の最後まで面倒見ていることに感謝するが、変化の激しい時代である為、更なる充実を期待したい。</p>
生徒指導	規範意識やモラル・マナーの教育の徹底から加藤プライドを育成する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校則の遵守(問題行動・身なり)</li> <li>・外部からの苦情(公共の場での振る舞い)</li> <li>・校外指導状況(特別指導・自転車マナー違反)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題行動件数を前年度より減少させるため、未然防止活動に力を入れる。(定期諸検査の徹底など)</li> <li>・苦情に対する迅速な対応と発生時の全校への呼びかけや訓話の徹底。</li> <li>・毎日の校内外の指導の強化と繰り返し違反の起こらない教育的指導の工夫。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題行動件数は、昨年とほぼ同数であるが、生徒の安易な考え方や慎重さに欠ける行動について、どうやって未然防止に繋げた指導ができるのか、最近の傾向に合わせた教育も考える必要性を感じている。</li> <li>・苦情件数は半減した。これは、昨年に比べ校外補導の実施回数が倍増し、毎日登下校時に通学路(昨年苦情多発場所)で指導できていることや、1件目の苦情に対し再発しないように数日間連続して監視できていることが大きいと感じる。</li> <li>・自転車マナーについては、沼津市高校生自転車マナー向上委員会の責任校として、自覚をもった指導を継続し、他校に比べ守れていると思うが、自転車通学生も他校に比べ多いので気は抜けない。</li> </ul>	A	<p>厳しい指導の中に温かみを感じることができる。加藤学園の生徒としてのプライドをもたせ、自分を守ること、他人に迷惑を掛けないこと等継続的な指導をお願いしたい。</p> <p>交通安全に対する指導は、徹底的に行った方がよい。被害者にも加害者にもなってほしくない。下校時の自転車マナーは、登校時に比べるとあまり良くない状況にある。下校時も気を抜かないように徹底した指導をお願いしたい。</p>
	保護者や地域住民の信頼を得られる学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登下校時の交通事故件数</li> <li>・いじめ・嫌がらせ・暴力などの人間関係のトラブル</li> <li>・盗難のない環境整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の登下校時の校外補導や交通安全講習・自転車定期検査の実施強化。</li> <li>・いじめ対策委員会を中心に生徒の人間関係や表情・生活の変化に早期に対応する。</li> <li>・生徒自らの防犯意識の育成と盗難の発生しにくい環境づくり。(施錠・貴重品管理の徹底)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車事故件数は、昨年と同数である。違反をしていなくても自動車側の不注意で起きたものも数件ある。生徒は常に前方を確認し危険予知能力の働く状況で運転していかなくてはならないことを毎月の違反者指導や事故発生時に全校へ注意喚起している。昨年度は校外指導を毎日行うことができなかったため、今年度初めは違反者も多かったが、現在はようやく減少傾向が続くようになってきている。</li> <li>・ネットによる誹謗中傷は少なかったが、クラス内での人間関係の悩みなど昔と比べ増加しており、教職員がアンテナを高く生徒を細かく観察し続ける必要がある。また、弱いものや相手の気持ちを感じられる人間づくりや良好な人間関係の構築に必要な道徳教育も今後いじめ対策委員会で計画していく予定である。</li> <li>・校内での金銭盗難・自転車盗難の被害は昨年に比べ若干増加した。全ての事案において被害者の自己管理ができていないこともあるため、継続して教職員の生徒に対する防犯教育や盗難が発生しにくい環境づくりそして生徒自らの防犯意識の育成に努めたい。</li> </ul>	B	<p>地域から愛される学校であり続けてほしい。</p> <p>生徒一人ひとりに声掛けし、いじめのない学校づくりを願う。男子よりも女子の方が心配である。SNS等のネットパトロールを実施しているようであるが、女子が夢中になれるものが学校にあるとよいのではないかと思います。</p> <p>盗難事件が増加しているようで、残念である。盗難がなくなる方法を考え、安心して生活できる学校にしてほしい。</p>